令和6(2024)年度
事業報告書

令和6(2024)年4月1日から

令和7(2025)年3月31日まで

学校法人高野山学園

1. 法人の概要

■法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神に則り、大学、高等学校、その他の教育施設を設置し、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。

(『学校法人高野山学園寄附行為』第3条)

■設置する学校等の所在地(令和6年度)

学校法人高野山学園 理事長：今川 泰伸

学校名		所在地	部門長
高野山学園 法人本部		〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385番地 TEL：0736-56-2922	本部長：山口 文章
高野山大学	高野山キャンパス	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385番地 TEL：0736-56-2921(代)	学長：添田 隆昭
	河内長野キャンパス	〒586-8511 大阪府河内長野市小山田町1685 (大阪千代田短期大学を共同使用) TEL. 0721-53-1101	
	難波サテライト教室	〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1丁目10-4 南海SK難波ビル7F TEL. 06-4301-7843	
高野山高等学校		〒648-0288 和歌山県伊都郡高野町高野山212番地 TEL：0736-56-2204 (代)	校長：橋本 真人
高野山こども園		〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山26-2番地 TEL：0736-56-2320	園長：立葉 了禅

■設置する学校・学科等

学校名	学部等		
高野山大学	文学部	密教学科	密教学コース
			密教文化コース
		教育学科	
	大学院	文学研究科	密教学専攻修士課程・博士後期課程
			仏教学専攻修士課程・博士後期課程
密教学専攻修士課程（通信教育課程）			
別科密教専修コース			
高野山高等学校	全日制課程	宗教科	
			普通科
		自己探求コース	
		スポーツコース	
	吹奏楽コース		
広域通信制課程			
高野山こども園	高野町からの指定管理		
子育て支援センター			

■設置する学校・学科の入学定員と学生・生徒・園児数（令和6年5月1日現在）

【高野山大学】		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数	
文学部	密教学科	30	25	120	219	
	教育学科	50	5	200	42	
	計	80	30	320	261	
大学院	密教学専攻	修士課程	13	3	26	12
		修士課程 （通信教育課程）	20	4	40	96
		博士後期課程	3	0	9	6
	仏教学専攻	修士課程	8	0	16	1
		博士後期課程	3	0	9	2
	計	47	7	100	117	
別科	密教専修コース	30	0	60	1	

【高野山高等学校】		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
全日制課程	普通科	120	33	360	102
	宗教科	30	9	90	18
通信制課程		300	6	900	27
計		450	48	1,350	120

【高野山こども園】	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	3	6	13	20	20	20	82
在籍園児数	3	1	8	3	14	6	35

■役員等の人数（令和6年5月1日現在）

	定員数	現員数
理事	10	10
監事	3	3
評議員	21	21

■教職員の人数（令和6年5月1日現在）

	教員			職員			合計
	専任	非常勤	計	専任	非常勤	計	
高野山大学	34	91	125	23	11	34	159
高野山高等学校	15	12	27	11	0	11	38
高野山こども園	7	5	12	1	0	1	13
高野山学園法人本部	—	—	—	4	4	8	16
合計	56	108	164	39	15	54	226

2. 事業の概要

■法人本部の事業報告

令和6年度 事業計画	令和6年度 事業報告
① ガバナンス強化	
<p>●経営改善計画検討案の作成 各部門（大学・高等学校・こども園）の今後の経営計画案及び財務シミュレーションを作成し、学園の問題点の認識を高め、経営改善の方策をスムーズに履行する</p>	<p>・大学の懸案事項であった教育学科の運営方針について、募集停止した場合の財務シミュレーションを作成し、理事会に上程し協議を重ねた結果、令和7年3月25日の臨時理事会にて募集停止が決定した。これにより令和11年度より資金減少が止まる見込みとなった。</p> <p>・高等学校については、令和5年度決算の支出内容を詳細に集計し、運営規模の考察を行い、部門長である校長と情報共有を行った。今後は理事会でも共有できるよう改善計画案の作成に努める。</p>
<p>●私学法改正対応</p>	<p>・2025年4月施行の私学法改正に伴い、寄附行為の見直し・変更を行い理事会・評議員会審議の上、9月に文部科学省に認可申請を行い、認可が下りた。</p>
<p>●情報共有の具体的方法の決定</p>	<p>全学説明会を年2回実施(7月・3月)</p> <p>・令和5年度の決算報告、現状の財務状況、今後財務予測・課題の情報共有を行った。</p> <p>・教育学科募集停止の理事会決定、及び教育学科募集停止による今後の財務予測の情報共有を行った。</p>
② 組織力向上	
<p>●外部講師によるSD研修を実施</p>	<p>・外部講師を招き「タイムマネジメント」、「ロジカルシンキング・ライティング」の研修内容で、学園の全職員参加でSD研修を実施。</p>

■高野山大学の事業報告

令和6年度 事業計画	令和6年度 事業報告
① 教育	
●教育の質的保証の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシーに基づき、教務委員会の監修により『講義概要・授業計画』（以下、シラバス）を作成した。シラバスはホームページに掲載し広く周知されている。シラバスには記載すべき10項目を設けており、学生自身が、授業の達成度を理解し、意欲的かつ効果的に学修を進めていくための内容となっている。 ・中間・期末の時期に、全学的な授業アンケートを実施した。この結果は教務委員会へ報告され、適宜FD・SD研修の受講や、授業改善計画を提出させる等、改善に取り組んだ。
●教育力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・密教文化コースについて、学科主任、事務部門で課題検討会を定期的実施し、問題点を洗い出し、次の改善をおこなった。 ○遠隔配信用教室（5教室）の設置 ○録画録音時における反響音対策として、床面、壁面への吸音材設置工事
② 学生支援	
●修学支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学修面では、担任にあたるアドバイザー教員と学務課職員が学修指導のほか生活全般の相談にも対応した。教員による個別指導、情報処理室の危機入替など環境を一部整備した。 このほか、合理的配慮を必要とする学生のために講義・試験の受講・受検方式も柔軟に対応した。 ・経済面では、学生支援機構の奨学金、修学支援金のほか、大学独自の給付型奨学金を学内掲示やメール等で広く周知した。支援を受けようとする学生に対しては学務課職員が申請方法等をサポートした。
●学生支援生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・精神面のサポートをおこなう学生相談室の利用状況から、必要十分な相談員を引き続き配置し、学生への利用周知をおこなった。
●退学者・休学者の防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活への戸惑いの多い新入生に、大学での学習や生活、学修目的を理解してもらうことを目的とした導入研修、オリエンテーションを実施した。その中で、学友会主催による新入生歓迎会を実施した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・履修指導や面談を通じて得た情報を、上述のアドバイザー教員と担当部局職員が情報共有し、学修面や生活面の問題に対処した。 ・精神面の問題から孤独化防止対策として、学務課主催でバーベキューや鍋パーティーなどの学生交流会を実施した。
③ 研究	
<p>●研究成果の社会還元</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会還元のため、以下の講座を開催し、講師を務めている。 【定期開催】 ○高野町教育委員会共催講座「高野山学」 ○河内長野市民大学「くろまる塾」との連携 ○大阪市立難波市民学習センター高野山大学連携講座 ○高野山大学フジキン小川修平記念冠講座講演会 ○東京大学先端科学技術研究センター主催「高野山会議」 【本学教員が講師を務めている講座】 ○和歌山県橋本市中央公民館主催の「ふるさと再見講座」 ○河内長野市の天見公民館主催の市民講座 ○河内長野市教育研究会小学校外国語部会 ○全国社会福祉協議会中央福祉学院「社会福祉主事資格認定通信課程」 ○岩手県・岩手県立大学社会福祉研修事業講師 ○滋賀県社会福祉協議会介護支援専門員現任研修更新研修講師 ○小学校外国語授業づくり研究会 ほか
④ 国際連携・地域連携・地域貢献	
<p>●産官学連携による社会的課題対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・密教学科では、学生の社会学習の一環として、高野町、角濱ごまどうふ総本舗をはじめ、周辺地域の行政・企業関係者に企画科目「地域連携」にて講義していただいた。 また、密教文化研究所が日本電信電話株式会社、株式会社ドコモ gacco、株式会社エクサウィザーズの4者で連携し、「高野山×Social Well-being」に関する体験コンテンツ開発し、体験効果検証を実施している。 ・教育学科では、実習授業「地域体験」の実習先企業と連携協定を結んでおり、それぞれの産業、河内長野地域における問題の解決に向け、河内長野市の住民とともに活動し、地域社会の課題解決に貢献した。

⑤ 施設設備整備計画	
●施設設備の修繕計画・実行	<ul style="list-style-type: none"> ・施設老朽化による雨漏りや設備不具合が多発している加行道場の営繕工事をおこなった。 ・次年度は水道関連を中心に老朽箇所の修繕をおこなう。
⑥ 財務戦略	
●学生生徒納付金の安定的確保 密教学科：新入生 30 名 編入 55 名（密教文化コース）	令和 7 年度新入生は、密教学科 1 年生 26 名、3 年次編入生が 69 名であった。入学者数の前年比は 1 年生 104%、3 年次編入生は 130%となった。
●支出額の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュベースで前年度より 1,495 万削減（内訳：人件費▲4,122 万、教育研究費+3,197 万、管理費▲690 万、設備費+120 万）。 主な増減理由は人件費では、教員人件費▲1,385 万、職員人件費▲819 万、退職金▲1,918 万、教育研究費では光熱水費+565 万、奨学金+2,715 万。 ・令和 7 年度は 5,500 万削減予定。
⑦ 組織運営体制	
●大学評価による恒常的な教育の質向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・中間監査後の対策を実施し、2018 年に是正勧告を受けた 4 点のうち、2 点（文学研究科修士課程の研究指導方法及びスケジュールの未記載の件、修士課程と博士課程で同じアドミッションポリシーが設定されていた件）は改善が認められたが残る 2 点（学生数、財務）については認められなかった。大学評価委員会で改善状況を取りまとめ、2025 年度認証評価に申請した。

■高野山高等学校の事業報告

令和6年度 事業計画	令和6年度 事業報告
① 高校運営	
●内部組織の活性化	ラインワークスの活用により、教員間の情報共有が瞬時に行えるようになっており、教員間の意思疎通や生徒対応にとっても有用となり、学校運営が活性化された。
② 大学との連携	
●教員出講	橋本真人校長が布教の授業として、富田向真教諭が宗教科教育法Ⅳの授業としてに出向している。また、大学からは松本貴子先生が留学生への日本語授業として出向していただいている。さらにスクールカウンセラーとして高野山大学勤務の阪岡先生に週1日出校頂いている。
③ 全日制課程	
●教育活動	ICTの導入により、生徒に1人1台のPC端末を貸与し、ロイロノート（授業支援ソフト）やスタディサプリを導入することで、教育の幅が広がっている。また、生徒や保護者との連絡ツールとしてGmailを活用することで、教育活動がよりスムーズになっている。
●生徒支援	高野山大学よりスクールカウンセラーの阪岡先生に出校いただき、生徒への心理的ケアを行うとともに、養護教員（野村先生）の在勤により、生徒の体調管理やケアができています。また、男子寮・女子寮では寮監体制をさらに強化することで、生徒が安心して生活できる体制を整えた。
●進路指導	進路に対するガイダンスの実施と、個別に対する進路指導を徹底することできめ細やかな進路指導ができた。また中国からの留学生に対する進路指導や進路開拓を行い、すべての生徒が進路を確定することができた。
④ 通信制課程	
●教育活動の充実	生徒が単位修得できるように、わからないところをスクーリングで指導したり、サポート校と連携し、生徒が教育活動に困らないように対応した。

●生徒支援の充実	生徒並びに保護者とラインでつながることで、日々の連絡や主要な連絡がスムーズかつ的確に相手に届いていることが認識できた。また、就学以前に様々な心的トラブルを抱えている生徒に対して、焦らさずそれぞれのペースで就学できるように促し、安心感を得ることができた。
●進路指導の充実	通信制生徒が活用できる指定校推薦の拡大・模索を行い、さらにはそれぞれに合った希望進路への相談、受験指導を行い、それぞれの希望する進路先に進むことができた。
⑤ 生徒募集	
●転編入学募集の強化	転編入募集パンフレットを作成し、募集要項と共に発送や手渡しすることで、転編入を広く行っていることの認知を得ることができた。令和6年度は7名の転入を受け入れた。
●留学生募集の強化	令和6年度の上海朝陽義塾高校からの入学は1名であったが、本校の進路実績や上海朝陽義塾高校の修学旅行を本校で受け入れるなどの連携強化により、次年度の希望者が11名となり、強化活動は一定の成果を得たと言える。
⑥ 特色ある教育活動の展開	
●教育改革推進特別事業	特別進学コース授業をはじめ各コースの授業の見直し。スポーツコースに男子バスケットボール部の創設の準備。次年度のクラス編成の見直し。
⑦ 施設・設備の整備事業	
●各所修繕と経費の見直し	適宜修繕箇所に対して費用の最小限の方法を模索して修繕を行っている。大きな修繕に関しては、業者の選定などを適切に行い、費用の捻出なども同窓会や育友会などの機関との相談や支援を仰ぎ、行ってきた。しかし、校舎や施設老朽化は免れず、今後も修繕すべきか所があり、修繕しながら教育環境を維持発展させていきたい。
⑧ 高野町との連携	
●事業参画・駅伝指導	本校の福島太郎教員が町教育委員会の活動に参画し、小中学生に駅伝の指導を行うことで、小中学生が毎年参加するジュニア駅伝の発展に寄与し、さらに学生たちに本校の活動を認知していただく機会を得ることができた。

■高野山こども園の事業報告

令和6年度 事業計画	令和6年度 事業報告
① 教育・保育の充実	
<p>●教職員の啓発・スキルアップ</p> <p>園児・教職員・保護者それぞれにとって良いこども園をつくるために、教職員の意識改革・スキルアップを促す。</p>	<p>県主催の合同研修他、現在の担当業務に必要と思われる研修を受講し、報告書を提出するとともに、職員会議等の場において研修内容等の共有を図る。園内研修としては、救命講習を全職員が受講するとともに、職員間の親睦と連携を深めるため橋本市家庭支援チームヘスティアによるワークショップを開催した。今後も継続して保育・教育に関わる意識改革・スキルアップを図る。</p>
<p>●教員・保育士の安定確保</p> <p>町の移住・子育て支援施策と連動し、入園希望者に対応できるよう保育士を確保する。</p>	<p>ハローワークへの働きかけと和歌山県社会福祉協議会へのホームページ等への職員募集の掲載を行った。</p> <p>求人募集は、近隣の府県にある大学・短期大学の約20校へ行き、若い世代の職員採用とともに、次世代の職員の雇用を図るよう今後も継続していきたい。（6年度は、3名採用）</p>
<p>●小学校・中学校との連携</p> <p>高野町学びの拠点整備事業で小・中と隣接することで児童や生徒、職員間で交流し、互惠性のある連携を行う。</p>	<p>中学生の職業体験や保育実習の受け入れ、小学生による絵本の読み聞かせや1年生との交流などを行い、今年度は、雪上運動会や餅つき大会などにも誘いをいただき、交流を深めることができた。また、小学校とは、互いに授業や保育を見学し合い、職員間で子どもの様子を話し合うことで連携を深めることができた。</p> <p>今年度は、管理職が集まり、互いの行事や情報交換を行うなど連携会議を行った。</p> <p>公民館での図書の貸出や給食センターの調理見学など、学びの杜としての利点を活用し、徐々に交流を深めている。</p>
② 保護者・地域との協力体制確立	
<p>●保護者への報告・サービスの充実</p> <p>開かれた園となることで大切な地域の方々と安心・信頼のある関係を維持構築する。</p>	<p>年2回の保護者会総会と年3回の保護者意見交換会などに職員も出席し、より良い園運営となるよう進めている。保護者の参加者が限られてしまうため、開催を夕刻ではなく午後の早い時間、保護者間の交流を深めるためのワークショップを行うなど、保護者会とともに考え取り組んでいるところである。今年度は、新たに5歳児の保護者を対象に子育てサロンを開催した。</p> <p>また、地域に出かけ、仕事場見学や買い物体験など地域の皆さんのご理解とご協力を得て子どもたちの経験を深めているところである。</p>

<p>●高野町との連携</p> <p>委託者である高野町と協力することで、地域の教育・福祉の向上に努める。</p>	<p>より良い園活動を進めるため、教育委員会や介護福祉課との連携は必須である。中でも、発達がゆっくりな子どもたちの様子やしかるべき対処法などは、保健師や発達相談員との定期的な訪問や協議を行い、意見を聞く機会を得て子どもたちのより良い発達に繋げている。</p> <p>また、給食センター職員や役場の職員と月1回給食会議をもち、献立や食の安全について意見交換を行っている。</p>
<p>③ 子育て支援センター運営</p>	
<p>●子育て家庭の交流の場や情報の提供</p> <p>子育て支援業務（相談・一時預かり）を通して、こども園への入園希望者増加をめざす。</p>	<p>支援センターの様子や行事予定について、役場の広報へ掲載し各家庭へ周知するとともに、毎月発行のげんきっころムだよりについては、令和6年度より支援センターから町内の未就園児をもつ保護者の方へ届けている。また、口コミでのセンター利用も増えている。</p>
<p>●保護者の就労・疾患等により、一時的又は緊急に保育を必要とする児童への対応</p> <p>子育て支援業務（相談・一時預かり）を通して、こども園への入園希望者増加をめざす。</p>	<p>子育てに対する不安などを抱え家に籠ることなく相談できる場所、同じような経験をもつ保護者とのつながりもできる場所として、支援センターの利用を促す。一時預かり利用数は令和6年度延べ79人であり令和5年度の36人を上回っている。保護者の就労やリフレッシュなど一時的に利用することで安心した子育て環境を提供するとともに、こども園への入園のつなぎとなり、保護者から信頼や安堵感を得ている。</p>